

2023年度主要事業の取組み及び今後の取組み

高原都市宇陀を成長させるリーディングプロジェクト（中期基本計画）

しごと

観光戦略の推進

- 自然や歴史・文化資源を活かした周遊・滞在型観光の推進
- スポーツを通じた関係人口の創出



商工業の再生・活性化

- 大和高原の玄関口としての駅前整備
- 保全と活用による土地利用の推進
- 企業誘致の推進
- 空き家・空き店舗の活用



グリーン社会の実現

- 再生エネルギー導入の推進
- 省エネルギー化の推進
- 森林環境の保全

高原都市
宇陀ではたらく

～産業・観光の振興～



デジタル化の推進

- 生産性の向上
- 作業効率の改善
- 省人化の実現

地域資源を活かした
農林畜産業の再生・活性化

- 大和高原宇陀ブランドの発信
- 農林畜産資源を活かした人材育成
- スマート農業など
農業生産基盤の整備推進
- ジビエ利活用施設の整備推進



道路環境の整備

- 重要物流道路としての
国道165号の整備促進
- 通学路の安全確保の推進



2023年度主要事業の取組み及び今後の取組み

伊勢本街道魅力創出事業

2023年度の取組み	内牧区民の森の整備に着手し、モデルコース1コースを造成、案内看板2か所、案内板16か所、駐車場2か所の整備が完了した。 駐車場を整備したことにより、山頂での駐車問題が緩和した。
今後の取組み	伊勢本街道整備に係る補助金等の交付決定を受け、事業実施に向けて取り組んでいる。



整備後の内牧区民の森駐車場

うだソムリエ検定事業

2023年度の取組み	「観光誘致・地域振興・移住促進・産業継承・人口増加」へ結びつけることを目的として、県内自治体で初めてふるさと検定を開催した。2023年度は190人が受験し、メディアにも取り上げられたことで宇陀市ファンが増加し、市のPRができた。
今後の取組み	今後は、受験者数の減少が予想されるため、階級の追加や日程等についても検討する必要がある。



第1回宇陀ソムリエ検定ポスター

国道165号（中和津道路）整備推進事業

2023年度の取組み	2022年11月に、国道165号（中和津道路）整備促進協議会を宇陀市と名張市により設立し、2023年9月、協議会に樫原市、桜井市、伊賀市、津市の4市が加入した。6市としてより一層の連携を強化するとともに、早期事業化に向けての要望書を作成した。
今後の取組み	今後は、早期事業化に向けて関係各所へ要望活動を継続的に行う。 また、課題部分の整理など各県と情報共有や意見交換を行い、事業の具体化を進める。



国道165号整備促進協議会臨時総会

エストニアとの交流による人材育成事業

2023年度の取組み	公募より選ばれた市内の中学生10名を2023年7月にエストニアへ派遣した。さらに、帰国後は留学に参加した中学生がプレゼンテーションなどで同国での体験を伝える報告会を開催した。同国との交流について広く発信することによって、シティプロモーションを進め、移住・定住に繋げていく。
今後の取組み	エストニアとの交流で得た知見やネットワークを基に、宇陀に居れば、宇陀に来れば、アントレプレナーシップを育むことができる宇陀市独自の環境づくりを目指す。 また、自律走行配送ロボット開発企業であるクレボン社及び関連企業誘致を目指し、学んだことを実践できる環境を整える。



VIVITAでの様子

榛原駅前交流施設運営事業

2023年度の取組み	2023年7月に整備工事を完了し、8月にオープンした。観光案内や物産品の展示販売及び地域情報の発信を行った。また、空き家、空き店舗情報や移住・定住の情報提供を行うことで地域経済の活性化と観光入込客数の増加を図った。2023年8月から2024年3月までの利用客は19,147人、月平均2,400人程の利用がある。
今後の取組み	誰もが利用しやすい環境づくりを行い、市の情報発信拠点として運営を行う。今後は、指定管理者制度も視野に入れた宇陀市の玄関口としての役割を果たす施設としていく。



2023年8月にオープンした駅前交流施設

空き店舗改修補助事業

2023年度の取組み	企業誘致だけでなく、創業支援やサテライトオフィスでの取り組みなどと併せて広く周知をおこなった。市外や県外事業所を誘致することにより、2023年度は6件の市内空き店舗等の活用を促進することができた。
今後の取組み	2023年度オープンしたサテライトオフィスとの運動した取り組みや、新規創業や市内への事業所進出などの企業誘致について、空き店舗対策と合わせて行うことで、事業者の進出を促し事業効果を高める。



イメージ図

オーガニックビレッジ推進事業

2023年度の取組み	2022年11月に全国で初となる「オーガニックビレッジ宣言」を行う。 2023年は生産面積の拡大（22.8ha）及び有機JAS認証者（18名）の増加につなげることができた。
今後の取組み	消費者向けPRの強化を図る。 スーパーオーガニック補助金の活用を検討する。



宇陀産の有機野菜

ジビエ利用施設設置事業

2023年度の取組み	物価スライドにより工事費が増加したが、森林環境譲与税及び鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、獣肉利用施設「UDA GIBIER FACTORY」が2024年2月に竣工した。
今後の取組み	指定管理者制度を活用することで適切な管理運営を行う。 （目標加工処理頭数は年間1000頭）



2024年2月に竣工したUDA GIBIER FACTORY

公民連携まちづくり推進事業

2023年度の取組み	公民連携まちづくりプラットフォーム第4回及び第5回フォーラムを開催。 ④オーガニックビレッジの取組を起点とした農と食の活性化～オーガニックビレッジのその先を考える～ 参加者 77名、⑤地場産業の活性化・地域ブランディング 参加者 30名
今後の取組み	2023年度では、プラットフォーム会員数を61団体に増やすことができたとともに、3つのコンソーシアムが設立され、事業展開が図れた。今後も井戸端会議や検討会を開催し、市の課題解決に繋がるコンソーシアムの設立を促進していく。※プラットフォーム会員数（2024年7月24日時点 63団体）



2024年2月開催の第5回フォーラムの様子

ひと



榛原地域就学前施設等整備事業

2023年度の取組み	2026(R8)年4月の榛原地域就学前施設「幼保連携型認定こども園」の開園に向け、2023年度においては、建設予定地が決定し、基本設計・解体設計を完了した。
今後の取組み	2026年(R8)4月開園を目指し、工事（解体・本体）の適切な進捗管理を行うとともに、統合準備委員会（構成：保護者代表/園評議員/教職員/地域主任児童委員/行政職員）により統合のために必要な事項（制服・園歌・園章・通園バスルート等主にソフト面）を協議していく。



榛原地域就学前施設（イメージ図）

たまひよサポート事業

2023年度の取組み	SNS、広報等で周知し、妊娠時から出産後までの子育て家庭に寄り添う「伴走型相談支援」として、妊娠届出時の面談及び産後の訪問を実施した。面談率は100%を達成することが出来た。また、妊娠・出産後の経済的支援についても実施した。
今後の取組み	こども家庭センター設立に伴い、福祉部門と連携の強化に努め、さらなる伴走型の支援体制づくりを実施する。



たまひよサポートチラシ

子どもの第三の居場所づくり事業

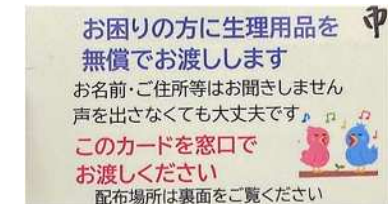
2023年度の取組み	居場所を設置したことにより、支援を必要とする子どもと家庭に積極的に介入することができた。学校や行政では手が届かないと思われていた食事提供や基本的な生活習慣の形成支援など、こどもの生活とところを支えるための社会資源を整備することができた。
今後の取組み	2024年度以降は定員を20名とし、支援を必要とする子ども・家庭の把握と利用勧奨に努める。そのため、小・中学校、民生委員等との連携の強化を図る。



2024年5月に行われた公益財団法人B&G財団との調印式

「生理の貧困」支援事業

2023年度の取組み	経済的な理由等で生理用品の購入が困難な女性に対し、市役所人権推進課、各地域事務所及び各人権交流センターの窓口において、生理用品1セットと各種相談窓口のチラシ等を同封したものを配布し、希望者には漏れなく配布することができた。
今後の取組み	2024年度も事業を継続するため、関係者との連携で経費を削減しながら生理用品を配布できるよう調整していく。なお、2024年5月より、中央保健センターも配布場所に加えた。



市役所女性トイレに設置しているカード

空き家利用活用促進のための宇陀の魅力体験施設運営事業

2023年度の取組み	地方への関心の高まりをはじめ、施設の利用対象者である空き家情報バンクの利用登録者に施設の周知を行ったものの、2023年度の施設利用件数が21件（95日）にとどまった。
今後の取組み	利用日数について、2023年度において95日であることから、一層、施設の周知及び利用日数の増加を図る。



空き家を活用した宇陀の魅力体験施設

新宇陀市立学校給食センター建設事業

2023年度の取組み	2023年1月から工事着手し、2023年度は野依小学校関連施設及び野依保育所の解体工事を計画工程通り5月に終えた。引き続き6月から給食センター本体棟建設、附属棟改修に着手し、年度末の進捗状況は計画工程どおりであった。
今後の取組み	建設工事が終了し、2024年7月31日に竣工式を開催した。愛称「うだ にここごキッチン」として2024年の2学期より新給食センターで作った給食を市内の幼稚園、小・中学校の子どもたちに提供している。



2024年7月に竣工した新学校給食センター

学校適正化推進事業

2023年度の取組み	教育委員会の附属機関として設置した学校適正化推進委員会を4回開催。2023年12月に学校適正化推進委員会から答申が出され、「宇陀市学校適正化基本計画」の策定に向けて、庁内会議を2回開催できた。
今後の取組み	2024年度内に「学校適正化基本計画」を策定する。



宇陀市学校適正化推進委員会委員長より教育長に答申

ごみ処理施設広域化事業

2023年度の取組み	1市2村（宇陀市・曾爾村・御杖村）でごみ処理広域化推進協議会を設立。
今後の取組み	生活するうえで、必ず発生する可燃ごみの処理について、広域的に処理することを踏まえ、ごみ処理施設の建設に向けて取り組む。



三市村長（協議会立ち上げ時）

移動手段確保に向けた取組み

2023年度の取組み	2023年12月に高齢化が進行する榛原天満台団地周辺で、自動運転車両及びグリーンスローモビリティを用いて、地域の拠点である大和富士ホールと宇陀市立病院、商業施設を結ぶルートで実証実験を行い、走行ルートの安全性、社会受容性、サービス適用性を検証した。
今後の取組み	レベル4による自動運転の実装に向けては、路上駐車や狭い道路での対向など、自動運転への切り替えが必要となるなど技術的な課題がある。2024年度も実証実験を行い、通院、買い物など、全世代が住み続けられるためのまちづくりの実現を目指す。



自動運転車両及び実証実験の様子

まち



ウェルネスシティ 宇陀の実現

- 生活習慣病の予防や重症化予防の健康づくり活動の推進

市立病院を中心とした 地域医療体制の充実

- 奈良県東部地域の中核病院として、へき地拠点病院である市立病院の機能強化
- 移動診療車による巡回診療の推進



ウィズコロナ対応

- ウィズコロナ時代の新しいライフスタイルの実践



災害に備えた まちづくり

- 自然災害や感染症に備えた安全・安心の強化



高原都市 宇陀でつながる

～健幸・安心安全・活力ある地域づくり～

デジタル化の推進

- リモート技術の活用
- オンラインでの各種申請

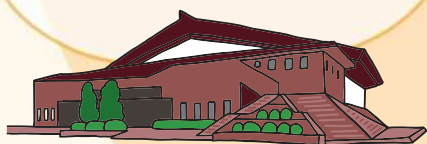
福祉環境づくり

- 誰一人取り残さない居場所づくりの推進



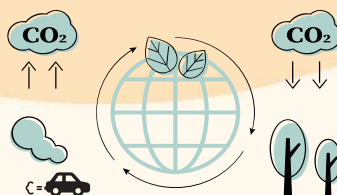
スポーツ活動の推進

- 国民スポーツ大会等の会場誘致



グリーン社会の実現

- 低炭素、環境低負荷で健康なライフスタイルの推進



健康アンバサダー養成事業

2023年度の取組み	ウェルネスシティ（健康都市）の実現に向け、人およびまちの「健康」を達成するために必要かつ正確な情報を、健康づくり無関心層を含めた多数の地域住民に「心に届く情報として」伝え拡散する社会的役割をもった「健康アンバサダー（通称：歩ジティブさん）」を養成する。養成講座を実施し、2023年度において56人を養成できた。
今後の取組み	健康アンバサダーとして、身近な市民への健康づくりのための口コミ等を通して健康なまちづくりの推進に向けた活動を支援する。また、今後の活動に向け健康アンバサダーを対象とした研修会や交流会を開催し、正しい知識の習得や仲間づくりを深め、活動の輪を広げていく。



アンバサダー養成講座

消防団機庫等建設事業

2023年度の取組み	2023年度において室生上笠間に機庫を建設した。当初の予定よりも遅延しているが、地元消防団及び地域の自治会と時間をかけて、建設場所等を十分に協議し、建設に至っている。
今後の取組み	消防団組織再編計画に基づき、機庫、詰所や消防車両の更新を進める。



室生上笠間に建設された消防機庫

カーボンニュートラル推進事業

2023年度の取組み	カーボンニュートラルによるグリーン社会の実現を目指すため、「宇陀市地球温暖化対策実行計画」を策定し、具体的な施策の検討を行った。また、電気自動車2台を導入するとともに自家発電装置の無い地域事務所2ヶ所にパワーコンディショナー（定置型の施設に電気を供給するための装置）を設置し、停電時に対応できるよう環境整備を行った。
今後の取組み	宇陀市地球温暖化対策実行計画に基づき、庁内各課と連携を図りながら事業を推進し、施策の進捗目標を達成するため、計画の進捗状況について点検を行う。



宇陀市地球温暖化対策実行計画

公共施設マネジメント推進事業

2023年度の取組み	ファシリティマネジメントの全庁的な調整・合意を行える体制として、2024年1月に「ファシリティマネジメント推進委員会」を設置した。2023年度において3回の会議を実施し、本市のファシリティマネジメントの推進方針等について決定した。また、公共施設等総合管理計画について一部改訂を行った。
今後の取組み	ファシリティマネジメント推進委員会に諮りながら、公共施設等総合管理計画に基づく施設統廃合等の集約化などの各施策の推進及び計画及び個別施設計画の改訂を進めていきたい。



宇陀市公共施設等総合管理計画

宇陀市立病院総合診療科外来の開設

2023年度の取組み	2023年4月開設。総合診療科とは、内科や外科といった従来の専門科、あるいは臓器別の区別ではなく、1人の患者をさまざまな角度から総合的に診る診療科である。病気の原因や病名が特定されない症状に向き合ったり、適切な診療科へ紹介するなど患者に寄り添い健康問題の解決につなげる。
今後の取組み	総合診療科では幅広い患者層を対象とするため、他の専門科との定期的なミーティングを実施し、診療方針の共有や役割分担を明確化する。また、院内での患者紹介システムを整備し、診療の効率化を図る。さらに、地域の診療所や他の病院との連携を強化するため、定期的な情報交換や地域住民が安心して医療サービスを利用できるよう、情報提供の場を設ける。



宇陀市立病院総合診療科の診察室前

予防接種事業

2023年度の取組み	新型コロナウイルスの影響及び里帰り中の保護者への対応として、オンラインと対面式のハイブリット方式で実施。欠席者への代替対応として、予防票郵送や個別に電話・面接・訪問により説明を実施。未接種者には個々に接種勧奨をするが、宗教や個人的な考えから接種を拒否するケースは一定数あり。
今後の取組み	今後も保護者への予防接種の理解を深めるとともに、交流を目的として、従来の来所型教室とオンラインのハイブリット方式で継続。並行して、電話・面接・訪問等での個別対応も行い、全ての保護者に予防接種についての正しい理解を広めていく。



ワクチン接種会場の様子

DX推進事業

2023年度の取組み	従来紙媒体で行っていた郵送での照会や契約締結などの業務を電子へ切り替えたことにより、事務に係る日数を飛躍的に短縮することができた。また、行政手続き等デジタル化ツールやビジネスチャットツールの導入により市民への負担軽減や業務の効率化を図ることができた。
今後の取組み	事業によってはDXを活用した業務推進を行い、業務手続の簡素化（書かない窓口など）やマイナンバーカードを利用したDX推進事業について積極的に取り組んでいく。



宇陀市DXのロゴマーク

重度心身障害児（者）等居場所づくり事業

2023年度の取組み	事業実施初年度として、利用者数については想定していた人数を確保できた（利用者数：50人）。事業実施回数については、施設において新型コロナウイルス感染症が発症したことで中止せざるを得ないこともあり、想定していた実施回数には届かなかった。
今後の取組み	本事業の周知啓発を徹底し、児童のみの利用であるが、今後は大人の利用にも取り組んでいく。



利用者の様子